

ホクコースタークル®顆粒水溶剤

■種類名：ジノテフラン水溶剤
 ■有効成分：ジノテフラン -----20.0%
 ■化管法指定物質：ジノテフラン [第1種] -----20.0%
 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩
 (アルキルの炭素数が10から14までのもの及び
 その混合物に限る。) [第1種] ----- 1.8%

■登録番号：第20813号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2002.04.24
 ■性状：淡青緑色水溶性細粒
 ■有効年限：5年
 ■包装：100g×50袋、250g×40袋
 500g×20袋
 5kg×2袋(地域限定)

【特長】

- フラニコチニル系殺虫剤ジノテフランの顆粒水溶剤。
- 広い殺虫スペクトラムで、アブラムシ類、コナジラミ類、カメムシ類、ウンカ・ヨコバイ類、コナカイガラムシ類などの植物を吸汁加害するカメムシ目害虫、薬剤抵抗性が問題になりつつあるイネドロオウムシや重要な土壌害虫キスジノミハムシなどの甲虫目、野菜・花きの難防除害虫マメハモグリバエ等の双翅目や、アブラナ科野菜の大害虫コナガ、果樹の重要害虫シンクイムシ類・ハモグリガ類・ホソガ類等の鱗翅目害虫、およびアザミウマ類にも高い効果を示す。

【適用内容】(2024年11月末日現在)

作物名	適用害虫名	希釈 倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジノテフランを含む 農薬の総使用回数				
稲	カメムシ類	2000	60~150 ㍓/10a	収穫7日前 まで			4回以内 (育苗箱への処理及び側 条施用は合計1回以内、 本田での散布、空中散 布、無人航空機散布は 合計3回以内)				
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	3000									
とうもろこし(子実)	ムギクビレアブラムシ カメムシ類	2000	100~300 ㍓/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内				
未成熟とうもろこし	アブラムシ類 カメムシ類										
もも ネクタリン	モモチョッキリゾウムシ アブラムシ類、カメムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ										
おうとう	オウトウショウジョウバエ カメムシ類		2回以内								
かき	カメムシ類 コナカイガラムシ類 カキノヘタムシガ アザミウマ類		4回以内 (塗布は1回以内、 散布は3回以内)								
マンゴー	チャノキイロアザミウマ		3回以内								
小粒核果類	アブラムシ類、カメムシ類 シンクイムシ類		3回以内								
ぶどう	カメムシ類 ブドウトラカミキリ		3000		200~700 ㍓/10a				3回以内		3回以内 (塗布は1回以内)
	フタテンヒメヨコバイ										
	チャノキイロアザミウマ コナカイガラムシ類		1000~2000								
あけび(果実)	カメムシ類	2000		収穫14日前まで	2回以内		2回以内				
キウイフルーツ		1000~2000									
びわ	カメムシ類 ビワキジラミ	2000		収穫前日 まで	3回以内		3回以内				
りんご	アブラムシ類、カメムシ類 キンモンホソガ シンクイムシ類 ギンモンハモグリガ コナカイガラムシ類										
	なし							アブラムシ類、カメムシ類 シンクイムシ類、ケムシ類 コナカイガラムシ類 チュウゴクナシキジラミ			

作物名	適用害虫名	希釈 倍数(倍)	使用用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジメトランを含む 農薬の総使用回数
かんきつ(苗木)	ミカンハモグリガ	50	100 ml/株	育苗期	5回以内	株元 灌注	5回以内
かんきつ	チャノキイロアザミウマ コナカイガラムシ類	1000~2000	200~700 ㍈/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
	ゴマダラカミキリ	1000					
かんきつ	アブラムシ類、カメムシ類 ミカンハモグリガ コアオハナムグリ ケシキスイ類、ミカンバエ アカマルカイガラムシ ヤノネカイガラムシ ミカンキジラミ コナジラミ類、アオバハゴロモ チャノミドリヒメヨコバイ サンホーゼカイガラムシ	2000	100~300 ㍈/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
	オリーブ	カメムシ類					
ばれいしょ	ワタアブラムシ	2000~3000	100~300 ㍈/10a	収穫3日前まで	1回	散布	1回
かんしょ	アブラムシ類						
トマト ミニトマト	コナジラミ類	2000~3000	セル成型育苗トレイ 1箱またはペーパー ポット1冊(30× 60cm・使用土壌約 1.5~4.0㍈) 当り0.5㍈	収穫前日 まで	2回以内	灌注	5回以内 (培土混和及び灌注は 合計1回以内、育苗期 の株元散布は1回以 内、定植時の土壌混和 は1回以内、散布及び 定植後の株元散布は合 計2回以内)
	カメムシ類	2000		定植時	1回		
ブロッコリー	アブラムシ類 コナガ	2000~3000	セル成型育苗トレイ 1箱またはペーパー ポット1冊(30× 60cm・使用土壌約 1.5~4.0㍈) 当り0.5㍈	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和及 び灌注は合計1回以内、 散布及び無人航空機 散布は合計2回以内)
	アブラムシ類						
はくさい	キスジノミハムシ ダイコンハムシ	2000	100~300 ㍈/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	3回以内 (育苗期の株元散布及 び定植時の土壌混和 は合計1回以内、 散布及び定植後の株元 散布は合計2回以内)
ピーマン なす	コナジラミ類	2000~3000					
	アブラムシ類	3000					
すいか	アザミウマ類 カメムシ類	2000	100~300 ㍈/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	4回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の土壌混和 は合計1回以内、定植 後の株元散布は1回以 内、散布は2回以内)
	アブラムシ類	2000~3000					
とうがらし類	コナジラミ類	3000	100~300 ㍈/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和は 1回以内、散布は2回 以内)
	アブラムシ類						
とうがらし(葉)	アザミウマ類、ナスミバエ	2000	100~300 ㍈/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和は 1回以内、散布は2回 以内)
	コナジラミ類	2000~3000					
かぼちゃ	アブラムシ類	100	セル成型育苗トレイ 1箱またはペーパー ポット1冊(30× 60cm・使用土壌約 1.5~4.0㍈) 当り0.5㍈	定植前日 ~定植時	1回	灌注	3回以内 (定植時の土壌混和 及び育苗トレイへの 灌注は合計1回以内、 散布は2回以内)
	コナジラミ類	2000		収穫前日 まで	2回以内		

作物名	適用害虫名	希釈 倍数(倍)	使用流量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジメフランを含む 農薬の総使用回数		
にがうり	コナジラミ類	2000	100~300 ㍓/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和は 1回以内、散布は2回 以内)		
セルリー	アブラムシ類			収穫14日前まで					
うり類 (漬物用)	コナジラミ類、アザミウマ類 アブラムシ類			2000~3000				収穫前日 まで	
ズッキーニ	アブラムシ類	2000	100~300 ㍓/10a	収穫前日 まで			2回以内	散布	4回以内 (定植時の土壌混和は 1回以内、定植後の 株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
きゅうり	コナジラミ類 アブラムシ類	2000~3000							4回以内 (育苗期の株元散布及 び定植時の土壌混和は 合計1回以内、 定植後の株元散布は 1回以内、散布は2回 以内)
	アザミウマ類 ウリハムシ カメムシ類	2000							2回以内
まくわうり	アブラムシ類	3000	100~300 ㍓/10a	収穫3日前 まで	2回以内	散布	3回以内 (育苗期の株元散布及 び定植時の土壌混和は 合計1回以内、 散布は2回以内)		
メロン	コナジラミ類	2000~3000							
	アザミウマ類 アブラムシ類	2000 3000							
キャベツ	アブラムシ類 コナガ アオムシ ハイマダラノメイガ	50~100	セル成型育苗トレイ 1箱またはペーパー ポット1冊(30× 60cm・使用土壌約 3㍓)当り0.5㍓	定植前日~ 定植時	1回	灌注	3回以内 (育苗期の株元散布、定 植時の土壌混和及び 灌注は合計1回以内、 散布及び無人航空機 散布は合計2回以内)		
	だいこん	アブラムシ類	2000~3000	収穫3日前まで	2回以内	散布	5回以内 (は種時の播溝土壌 混和は1回以内、 は種時の全面土壌混和 は1回以内、粒剤の 散布は1回以内、水溶 剤の散布、液剤の散布 及び無人航空機散布は 合計2回以内)		
	ダイコンハムシ	2000	収穫7日前 まで						
わさび	アブラムシ類	2000	100~300 ㍓/10a	畑育苗期	3回以内	2回以内	3回以内		
畑わさび	ナトビハムシ	3000		収穫3日前 まで					
クレソン	アブラムシ類	2000~3000		2回以内					
レタス 非結球レタス	アブラムシ類 ナモグリバエ	50~100	セル成型育苗 トレイ1箱またはペ ーパーポット1冊(30 ×60cm・使用 土壌約1.5 ~4.0㍓) 当り0.5㍓	定植前日 ~定植時	1回	灌注	4回以内 (は種前の培土混和は 1回以内、育苗期の株 元散布、定植時の土壌 混和及び育苗トレイへ の灌注は合計1回以 内、散布は2回以内)		
	ねぎ	アザミウマ類 ハモグリバエ類 シロイチモジヨトウ タネバエ、ネギコガ	50	100~300 ㍓/10 a	収穫3日前まで	2回以内	散布	4回以内 (は種時の土壌混和、 育苗トレイへの灌注及 び定植時の株元散布は 合計1回以内、 生育期の株元灌注は 1回以内、散布、 無人航空機散布及び 定植後の株元散布は 合計2回以内)	
アザミウマ類		2000	0.4㍓/㎡	生育期 但し、収穫 14日前まで	1回	株 元 灌 注			
アザミウマ類 ハモグリバエ類 トビロヒョウタンゾウムシ		400	1㍓/㎡						
クロバネキノコバエ類 アザミウマ類		1000	1㍓/㎡						

作物名	適用害虫名	希釈 倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジメフタンを含む 農薬の総使用回数
わけぎ	アザミウマ類	2000	100~300 ㍉/10a	収穫3日前 まで	2回以内	散布	4回以内 (定植後の株元散布は 1回以内、 生育期の株元灌注は 1回以内、 散布は2回以内)
	アザミウマ類 ハモグリバエ類	400	0.4㍉/㎡	生育期 但し、収穫 14日前まで	1回	株 元 灌 注	
にんじん	アブラムシ類	2000	100~300 ㍉/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	4回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内、生育期の 株元灌注は1回以内、 散布は2回以内)
	トビロヒョウタンゾウムシ クロバネキノコバエ類	400	0.4㍉/㎡	生育期 但し、収穫 21日前まで	1回	株 元 灌 注	
しゅんぎく	アブラムシ類	3000	100~300 ㍉/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時及び定植時の 土壌混和は合計1回以 内、散布は2回以内)
チンゲンサイ	キスジノミハムシ	2000		収穫3日前 まで			
	アブラムシ類	3000					
ほうれんそう	ウリハムシモドキ			2000			
	アブラムシ類						
非結球あぶら な科葉菜類 (チンゲンサイ、 畑わさびを除く) かぶ	キスジノミハムシ	3000					
	アブラムシ類						
だいず	カメムシ類 ダイズサヤタマバエ	3000					
	フタスジヒメハムシ						
あずき	アブラムシ類	3000		3回以内			
豆類(未成熟、 ただし、えだま め、さやいんげ ん、さやえんどう、 実えんどう、未成熟さ さげ、未成熟そら まめを除く)	アブラムシ類 ハモグリバエ類	2000	収穫7日前 まで	2回以内			
えだまめ	カメムシ類 アブラムシ類 ハモグリバエ類 ダイズサヤタマバエ	3000	収穫前日 まで	2回以内	3回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内、散布、 空中散布、 無人航空機散布は 合計2回以内)		
	フタスジヒメハムシ						
未成熟そらまめ	カメムシ類 アブラムシ類 ハモグリバエ類	2000	収穫前日 まで	3回以内	2回以内		
未成熟ささげ	アブラムシ類 ハモグリバエ類						
実えんどう さやえんどう	ウラナミシジミ						
	アブラムシ類 ハモグリバエ類						
さやいんげん	カメムシ類						
	コナジラミ類						
モロヘイヤ	アザミウマ類						
オクラ	アブラムシ類 フタテンミドリヒメヨコバイ						
しょうが	クロバネキノコバエ類						
らっきょう	アザミウマ類						

作物名	適用害虫名	希釈 倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジメトランを含む 農薬の総使用回数									
にら	ネギアザミウマ	400	0.4 ㍓/㎡	生育期 但し、収穫 14 日前まで	1 回	株 元 灌 注	3 回以内 (生育期の株元灌注は 1 回以内、 散布は 2 回以内)									
	クロバネキノコバエ類	1000	1 ㍓/㎡													
	ネギアザミウマ アブラムシ類	2000	100~300 ㍓/10a	収穫前日 まで	2 回以内											
アスパラガス	アザミウマ類 ジュウシホシクビナガハムシ コナジラミ類 カメムシ類		100~800 ㍓/10a			3 回以内	散布	3 回以内								
てんさい	アブラムシ類 テンサイモグリハナバエ	2000~ 3000	100~300 ㍓/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	灌 注			3 回以内 (灌注は 1 回以内、 散布は 2 回以内)							
	カメノコハムシ	1000~ 2000														
	カメノコハムシ テンサイモグリハナバエ テンサイトビハムシ	100~200	5 ㍓/ハ°-ハ° ホット 6 冊 (2.5 ㍓/㎡)	移植前	1 回											
	アブラムシ類 テンサイモグリハナバエ テンサイトビハムシ	100~240	6 ㍓/ハ°-ハ° ホット 6 冊 (3 ㍓/㎡)													
さとうきび	アブラムシ類 カンジャコバネナガカメムシ サトウキビチビアザミウマ	2000	100~300 ㍓/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散 布	5 回以内 (粒剤は 2 回以内、 液剤、水溶剤及び水和 剤は合計 3 回以内)									
きゅうり(葉)	コナジラミ類 アブラムシ類	3000		収穫 3 日前 まで	2 回以内			2 回以内								
きゅうり(花)				収穫前日 まで												
バジル	アブラムシ類			2 回以内					2 回以内	2 回以内						
しそ科葉菜類 (しそ、バジルを除く) しそ(花穂)																
しよくようほおずき 食用ミニバラ 食用カネーション 食用金魚草 食用パンジー 食用トレニア 食用なでしこ 食用プリムラ 食用Iサガム 食用せんいちこう 食用コスモス 食用ぎく	アブラムシ類 コナジラミ類										収穫 3 日前 まで					
しそ	アブラムシ類 ウリハムシモドキ										収穫 7 日前 まで	2 回以内	2 回以内			
なんてん(葉)	アブラムシ類										2000	収穫 3 日前 まで	2 回以内	2 回以内		
すいぜんじな												収穫 7 日前まで				
アマランサス(莖葉)												収穫 3 日前 まで				
ふき	コナジラミ類										2000	収穫 7 日前 まで	2 回以内	2 回以内	3 回以内 (土壌表面散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)	
オリーブ(葉)	カメムシ類											200~700 ㍓/10a				収穫 14 日前 まで
茶	チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ ツマグロアオカスミカメ コミカンアブラムシ											200~400 ㍓/10a				摘採 7 日前 まで

作物名	適用害虫名	希釈 倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジリテランを含む 農薬の総使用回数	
いね科牧草	アブラムシ類	2000	100~300 ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
花き類・ 観葉植物 (きくを除く)	アブラムシ類 コナジラミ類	2000~ 3000	1 ℓ/10a	発生初期	5回以内	灌注	5回以内 (土壌混和は 1回以内)	
	ハモグリバエ類	1000	1 ℓ/m ²			散布		
きく	アブラムシ類 コナジラミ類	2000~ 3000	100~300 ℓ/10a			散布		
	カメムシ類	2000				灌注		
	ハモグリバエ類	1000~ 2000	1 ℓ/m ²					
樹木類 (つつじ類、つ ばき類を除く)	ケムシ類	2000	100~700 ℓ/10a			散布		5回以内
つばき類	チャドクガ	100	0.5~2 ℓ/樹 (但し、220 ℓ/10a まで)			2回以内	株 元 灌 注	5回以内 (株元灌注は2回以内)
	つつじ類	ツツジゲンバイ ケムシ類	2000			100~300 ℓ/10a	5回以内	散布
いぐさ	イグサシンムシガ	1000	100~150 ℓ/10a			2回以内	散布	2回以内

作物名	適用場所	適用 害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ジリテランを 含む農薬の 総使用回数
せり	水田	アブラムシ類	2000	100~300 ℓ/10a	収穫7日前まで	3回 以内	散布	3回以内
せり(水耕栽培)	ガラス室等の施設				収穫3日前まで			
水田作物、 畑作物 (休耕田)	ヨシ、オギ、ススキ、 セイタカアワダチ ソウ等の多年生雑 草が優占している 休耕田	カメムシ類		60~150 ℓ/10a	—			

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	ジリテランを 含む農薬の 総使用回数
かき	コナカイガラムシ類	20~ 40g/樹	発芽前~ 発芽期	1回	本剤1g当り水1mlの割 合で混合し、主幹から主 枝の粗皮を環状に剥いだ 部分に塗布する。	4回以内(塗布 は1回以内、散 布は3回以内)
ぶどう			幼果期まで 但し、収穫30 日前まで			3回以内(塗布 は1回以内)
	クビアカスカシバ	40g/樹				

【効果・薬害等の注意】

- 使用量にあわせ薬液を調製し、使いきること。
- ぶどうの幼果期から果粒肥大期の散布は果粉の溶脱のおそれがあるので使用をさけること。
- つまみ菜、間引き菜に使用しないこと。
- 本剤をセル苗に使用する際は、調製液をセル成型育苗トレイまたはペーパーポット上方から灌注すること。また、本剤が土壌に十分に吸収されないおそれがあるので処理直前や直後の灌水はさけること。なお、高温時など極度に土壌が乾燥している場合には、葉縁が退色するなど薬害を生じるおそれがあるので、本剤を処理する予定の苗は、適切な水分および温度管理に努めること。
- かんきつの苗木に用いる場合は、今期に収穫見込のない苗木に対して使用すること。なお、本剤を処理してから効果を発揮するまでにある程度の期間を要するため、対象害虫の発生前に予防的に処理すること。

- 本剤を使用したわさびの苗を畑地からわさび田に移植する場合には、使用した農薬がわさび田の水系に持ち込まれないよう、わさびの苗に付着した土を十分に洗い落とすこと。
- カラー、花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しないこと。また使用後14日間は入水しないこと。
- 水耕栽培に使用する場合は、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ◆ ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ◆ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。
- ❖ 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のないものが使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
 散布後は水管理に注意すること。
 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。